

教育委員会会議録

令和7年（2025年）11月定例教育委員会会議

開 会 日	令和7年（2025年）11月27日（木）	
開 会 時 間	午後2時00分 ～午後5時35分	
開 会 場 所	S P r i n g 熊本花畑町 7階 D会議室 ※一部オンライン開催 オンラインでの出席者については各執務室	
出 席 者	委 員 会	遠藤洋路 教育長 西山忠男 委員 澤栄美 委員 村田慎 委員 清田晃子 委員
	事 務 局	福田衣都子 教育次長 梶原勢矢 教育次長 中川浩二 教育総務部長 吉田潔 学校教育部長 他
提 出 議 案	議第68号 令和8年度（2026年度）市立学校の校長の特例任用について 議第69号 職員の懲戒処分について 議第70号 熊本市教育の情報化検討委員会委員の委嘱について	
報 告	(1) こどもたちの心のケアについて (2) 熊本市学校給食施設整備基本構想（案）について	
自 由 討 議	英語教育について（ALT との意見交換）	
署 名	西山忠男	
	清田晃子	
会議録作成者	教育政策課 甲斐 まゆみ	

令和7年(2025年)11月 教育委員会会議録【11月27日(木)】

<p>〔開会の宣告〕</p> <p>遠藤洋路 教育長</p> <p>〔会議の成立〕</p> <p>遠藤洋路 教育長</p> <p>〔公開の審議〕</p> <p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>令和7年11月定例教育委員会会議を開会いたします。</p> <p>本日は、私のほか4人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。</p> <p>会議規則第14条第2項の規定に基づき、会議録署名人の指名を行います。会議録署名人は、西山委員と清田委員とします。よろしく願いいたします。</p> <p>本日の会議の内容につきましては、会議日程のとおりですが、本日の議事のうち、議第68号 令和8年度(2026年度)市立学校の校長の特例任用について、議第69号 職員の懲戒処分については、会議規則第13条第1号「教育委員会に属する職員の任免その他の身分取扱に関する案件」に該当することから、非公開の審議が適当と思います。</p> <p>議第68号、議第69号につきまして、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。</p> <p>(挙手)</p> <p>全員賛成により、議第68号、議第69号は、非公開とします。</p>
<p>日程第1 前回会議録等承認</p> <p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>それでは、「日程第1 前回会議録等承認の件」に入ります。</p> <p>10月23日開催の令和7年10月定例教育委員会会議録及び11月4日開催の令和7年第6回臨時教育委員会会議録を各委員のお手元に配布しております。この会議録等を承認することに、ご異議はありませんか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>異議なしと認めます。前回会議録等は、承認することに決定いたします。</p>

日程第2 事務局報告の件

- ・(1) 事業・行事等報告について

日程第3 議事

- ・議第70号 熊本市教育の情報化検討委員会委員の委嘱について

《水田貴光 教育センター所長 提出理由説明》

西山忠男 委員

今回は新任の委員がかなり多いのが特徴だと思いますが、これは今ご説明にあったように、ICT教育の効用についてもう一度見直しを進めるために委員を増やしたとか、それから、ちょっと委員の方の選考について、委員の方の考え方を考慮したとか、そういうことなんでしょうか。

水田貴光 教育センター
所長

委員は12名そのままですが、6年間の効果検証ということで今まで委員としてお取り組みされた方ではなく、外部の方を積極的に今回、委員に委嘱させていただきまして、外部の目線で熊本市の状況であるかのご意見をいただきたく、このようなメンバーの案をつくってまいりました。

西山忠男 委員

分かりました。

澤栄美 委員

今回、事前に見てくる時間がなかったんですが、今、西山委員の質問にもちょっと関係あると思うんですけど、特に学識経験者の新任の方が多くに思います。この辺はやはり何か意図があるということですか。

水田貴光 教育センター
所長

学識経験者をあえて増やさせていただきましたのが、今後をといいますか、データ分析的にアンケート結果とかそういう面を含めまして、今年度から来年まで本市の今までの取組を客観的にご意見いただきたいということで学識経験者を増やしております。

澤栄美 委員

先ほどの説明の中に、学力との関係、教育長が時々言われますけど、ICTを活用しているけど学力はほとんど変わらないという、その部分をちょっと意識したということになりま

	すか。
遠藤洋路 教育長	はい、その部分も意識したということで。
澤栄美 委員	も意識したということですね。分かりました。 もう一ついいですか。
澤栄美 委員	健康面というのも上げられていたので、養護教諭会の理事の 工藤先生が入られたということで、力を持ってらっしゃる方な ので、ご意見をいろいろ言っていただけたら、養護教諭がこ の中に入るといことには価値があるかなという感想を持って います。 ICTの活用で今まで報告があった中で、私もちょっと記憶 から呼び起こせないんですけど、健康面でいろいろ何か課題が あったとか、それはどういう内容か、何か今までありましたか。 そのことをちょっと確認させてください。
水田貴光 教育センター 所長	先ほど工藤あけみ養護教諭に委嘱ということで、本当は養護 教諭の先生は保健委員会等でいろいろな端末活用に関しての何 かアンケートを取ったりとか、学校保健委員会とか開催されて おられますので、いろんなデータお持ちであるというところで、 委員の案をつくってまいりました。 その中で睡眠不足であったり、依存的な活用であったり、タ ブレット端末だけではなく、自身のスマホもと思うのですが、 そういう視点でもご意見をいただけたらと思っております。
澤栄美 委員	それがすごく重要だと思いますけど、私がさっき聞いたかつ たのは、熊本のデータとして、何かほかの県と比べてこうだ とか、市と比べてこうだとかそういうことではなくて、一般的 な情報として睡眠に関わっていたり、精神的な問題だったり、依 存だったり、そういったことが一般的に問題になっているので、 今回健康面も考えようと、そういうことで了解してよろしいで すか。
水田貴光 教育センター 所長	アンケートは今から事務局で整理してまいりますが、今年度 は全学調、また教育センターでタブレット端末のアンケート結 果も取っておりますので、その結果を基にまず、意見交換をさ せていただきます。

澤栄美 委員

また、今年度また新たにタブレット端末の活用に関するアンケートを12月、1月に予定しておりますので、その中で今委員ご指摘の部分もアンケートに反映させて、今後、そのアンケート結果、本市の結果になりますけど、それを基に分析、効果検証を行っていきたいと考えております。

今年度からですかね。経年的にアンケートを取ることで、その効果を調べていくということですね。分かりました。ありがとうございます。

西山忠男 委員

タブレットの活用とか、その教育効果とか、そういうことが中心になるかと思えますけど、過去の会議の主な内容というところを見ても、GIGAスクール構想における熊本市のこれまでの総括と今後の方向性についてというのがありますよね。

今後の方向性についてというところでちょっと議論していたきたいのがAIの活用なんです。これ、AIって物すごく進化しているので、例えば英語の宿題でこの文章を訳してきなさいといったら、それを打ち込むだけで全部翻訳してくれるわけですね。あるいは社会の宿題で豊臣秀吉の政治について述べなさいとか、調べなさいといったら、それを聞いただけで全部AIが答えてくれるわけですね。そうすると生徒たちが一体どうやって勉強するんだろうと、あるいはそういう宿題をどうやってやるんだろうと考えたときに、いろいろ考えていかないと大変なことになるんじゃないかと。もういつも生徒は全部AIに頼り切ってしまうに違いないと思いますし、AIを使わないとなると、じゃ、どうやって調べたらいいのかというのが分からなくなるんじゃないかという気がするんですよね。そういう意味では、ちょっとAIの活用についても議論していただきたいというのが、私の個人的な望みですけど、いかがでしょうか。

水田貴光 教育センター
所長

現在、生成AIのパイロット校も設置しておりますが、今年度は武蔵中学校と清水小学校です。ただ、教員の活用の生成AIのところですので、こどもたちの生成AI活用に関しては、しっかり本会でも議論の中に入れさせていただいて、今後につなげていきたいと思っております。

西山忠男 委員

分かりました。

遠藤洋路 教育長

ほかにいいですか。

ほかになければ私からも1つ、委員の案のところでPTAと書いてあって、さっきもPTAの立場から意見をいただくと聞きましたけど、PTAという団体の立場から意見をもらうんじゃないかと思うんですけど、これはあくまでも保護者ではなくてPTAなんですか。

水田貴光 教育センター
所長

失礼しました。保護者様の意見というところで訂正させていただきます。申し訳ありませんでした。

遠藤洋路 教育長

じゃ、保護者ということでPTAの方が入っているという、そういうことでいいですか。

水田貴光 教育センター
所長

はい。

遠藤洋路 教育長

では、ほかによろしいですか。

では、ほかにないようでしたら、これで採決をしたいと思います。

PTAと保護者という表記は修正をしていただくとして、この委員のメンバー、委員の委嘱についてはご異議がなかったと思いますので、議第70号 熊本市教育の情報化検討委員会委員の委嘱についてご承認いただくことにご異議ありませんでしょうか。

（異議なしの声）

遠藤洋路 教育長

ご異議なしと認めます。議第70号については原案のとおり決定いたします。

〔採決〕 【原案どおり承認された】

日程第4 報告

・報告（1）こどもたちの心のケアについて

《勝田広幸 総合支援課長 報告》

澤栄美 委員

前回、通常の業務日誌では17項目になっているんですけど、これはどんなふうにまとめてあるんですかという質問をさせていただいて、今回、10項目から14項目になったということで、担当の先生にもお手数かけたことと思います。

これを基に今後、3か月に1回ですか、4か月に1回ですか、調査をして、これが増えたか減ったかという変動を見ていくということで理解してよろしいんですか。

1つだけ、私がちょっと見落としでなければ。大丈夫でした。発達のことがどこに入っていたかなと思ったんですが、9番に入っていて、小さいことを言うんですけど、閉じる括弧がなかった。そこに今、気づきました。内容的には何も。お手数かけましてありがとうございます。

西山忠男 委員

私も9番、気になったんですけど、9番が一番多いという、1,754件もあったということで、これに対してどういうふうに対応するのか、どういう相談体制をつくっていくのか考えないと、アンケートを取って推移を見るだけではあまり意味がないと思うんですね。やはり子どもが自分自身のことで相当悩んでいるんだなというのがよく分かります。ですから、これは誰が相談を受けるんでしょうか。

勝田広幸 総合支援課長

基本的にはこの調査を行った児童・生徒を対象に、例えば今、西山委員からおっしゃっていただいたように、ケアはスクールカウンセラーへの接続という対応をしてみたいです。

西山忠男 委員

その辺のことを少し学校側に丁寧に対応していただきたいというのが希望で、スクールカウンセラーがいいのかもしれないし、養護教諭がいいのかもしれないし、担任の先生がいいのかもしれないですね。その辺はお子さんの希望も聞きながら丁寧に対応していただければと思います。

遠藤洋路 教育長

ほかにいかがでしょうか。

私から1つ、前年の同時期と比べて減ったのはこの中で初めてのように見えるんですけど、何か減ったという理由というんでしょうか、これまでほぼ一貫して増加傾向であったんですけど

	<p>ど、頭打ちになったのか、何かその辺の分析というのがあれば教えてください。</p>
<p>勝田広幸 総合支援課長</p>	<p>教育長からご指摘いただきました前年度の2回目と同時期、今年度の2回目を比べた場合には確かに減っている部分ではありますが、大体年度1回目から2回目は増加傾向になっておりますので、同時期との比較は、すみません、しておりませんが、やはり例年どおり1回目よりも2回目がカウンセリングを必要とする児童・生徒が増えていると捉えております。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>もちろんそれはそうなんですけどね。例えば1回目を見ても、去年、前年度より増えているわけですね、少しですけどね。つまり今年度は増え方が例年に比べると少なかったわけですね。その辺の要因は何かということ。</p>
<p>勝田広幸 総合支援課長</p>	<p>大変少ない数ではありますが、やはり熊本地震の影響を受けたところと、新型コロナウイルス感染症は非常に少なくなってきている状況になります。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>分かりました。 今後、これがどう推移するのかというところなんですけど、どんどん増えるよりはやはりある程度少なくなっていくほうがいいことであろうと思うんですよね。もちろんカウンセリングが必要だと判断する基準が変われば、それは増えたり減ったりするのもかもしれませんが、そういうことが一定だとすれば、カウンセリングが必要なこどもが減っていくのであれば、それはそれにこしたことはないわけで、今後の推移も見ながら、どんなところが増えていて、どんなところが減っているのかということですね。全体の数だけではなくて、やはり先ほど澤委員、西山委員からもありましたけど、個別の要因について、今後、より丁寧に見ていく必要が出てくると思いますので、その辺はよろしくお願いいたします。</p>
<p>清田晃子 委員</p>	<p>悩んでいるからカウンセリングが必要になってくると思うんですが、この悩んでいるお子さんをお持ちの保護者の方も一緒に悩んでいるパターンもあると思うので、そちらのフォローというか、ケアのほうはどのようにお考えでしょうか。</p>

勝田広幸 総合支援課長	今清田委員がおっしゃったみたいに、保護者のケアが必要な場合にもスクールカウンセラーであったり、学校の教職員であったりというところに対応していくことになります。福祉等の専門家からもそういった助言が必要であればスクールソーシャルワーカーにも接続していくという対応をしていくこととなります。
清田晃子 委員	ありがとうございました。
澤栄美 委員	今の清田委員の質問に関連してなんですけど、私も普通に数とか児童・生徒数というところで見えていたんですが、通常、現場では保護者に、こどもさんが全然学校に来られなくて、スクールカウンセラーが保護者の相談に乗る、ということも少なくはない。その数というのは、児童・生徒がカウンセリングを必要としていて、親とカウンセリングをするというところで児童・生徒の数の数の中に入っているというふうに思ってもいいのですか。清田委員は恐らく児童・生徒だけ、ほかに親もそうなんではないかという質問だったと思うんで、この数自体がどういうふうに取り扱ってあるのかなと疑問に思ったものですから。
勝田広幸 総合支援課長	この数につきましては、学校がカウンセリングを必要と判断した児童・生徒の数になりますので、単純に保護者の数というものは含まれていない状況となります。中身次第では保護者の方も、含まれるところも、すみません、明確なところはないんですけど、そのような含まれる部分の数も入ることにもなります。
澤栄美 委員	また業務日誌になるんですけど、相談の中身ですね。誰が対象だったかというので、明らかに保護者という欄もあるんですよ。それと児童・生徒、それから教職員、そしてその他となっているので、もしかしたらこの中には私は、あくまでこのAというこどもの問題について相談するので、保護者も入っているのかなと思ったりもするので、ここをまたいつか確認させていただけたらと思います。
勝田広幸 総合支援課長	ありがとうございます。スクールカウンセラーの業務日誌の部分で今4項目整理されるような形になりますので、児童・生

	<p>徒のところと保護者のところと重複しているところもあるかと思いますが。また、その辺の部分、丁寧に対応していくためのことも含めて、私どももしっかり確認していきたいと思います。ありがとうございます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>澤委員、これは、対象者は市立小中学校の全児童・生徒5万9,205人であるんですけど、保護者がカウンセリングを受けるというの、基本的には児童・生徒のことについてということなんですよね。だから、ここにも入っているんだろうというふうには思いますが、確かにカウントの仕方がもしかしたら学校によってまちまちだったりする、入っていない場合もあるかもしれないですね。それはちゃんと確認したほうがいいですね。</p>
澤栄美 委員	<p>自分の業務なのでついこだわってしまうんですけど、各学校でスクールカウンセラーが業務日誌を書くわけですよ。それを集計するのは、例えば中学校にカウンセラーが配置されているのが主ですけど、あと、適応指導教室、フレンドリーなんかにもいるんですけど、そこの担当の、中学校区でしたら主に中学校の養護教諭と教頭になると思うんですけど、そこから上がってきたものを最終的に総合支援課が集計していると思うので、各学校でまちまちということはないのかなと思うので、恐らく集計された担当の方に聞けば結構すぐ分かることかなとは思いました。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。このアンケートは学校に聞いているわけですよ。</p>
勝田広幸 総合支援課長	<p>はい。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>ですから、学校がカウンセリングを必要と判断した児童・生徒の数を学校から集めているので、そこはやっぱり学校の数え方がどうなっているかということだと思うんですよね。</p>
澤栄美 委員	<p>あくまでこれは心と体の振り返りシートを使ったアンケートで必要と学校が判断したということですね。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>アンケート結果や日常の健康観察などです。</p>

澤栄美 委員	実際に、カウンセリングを行ったということではないということですね。
遠藤洋路 教育長	そうですね。この中にももちろん実際にカウンセリングをした人も入っていると思います。
澤栄美 委員	すみません、私の大きな勘違いでした。分かりました。 じゃ、学校がそこら辺のところの認識を共通理解しないと、このデータも十分に理解できないようになってくるということですね。
遠藤洋路 教育長	その可能性があるかなということですね。
澤栄美 委員	ありがとうございます。すみません、勘違いでした。
遠藤洋路 教育長	総合支援課でそれははっきりさせたほうがいい部分でしょうから、確認をお願いします。 ほかにいかがでしょうか。ほかにはよろしいですか。 では、ほかにはないようでしたら、本件は以上といたします。
・報告（2）熊本市学校給食施設整備基本構想（案）について	
《草野陽介 健康教育課長 報告》	
西山忠男 委員	パブリックコメントにある不安とか心配事はやっぱりもっともだと思うんですね。まず、1番目に、本当に温かいまま届けられるのかという問題についてはどう対応されるんですか。
草野陽介 健康教育課長	現在も、中学校については共同調理場ということで配送方式でやっております。保温食缶をきちんと活用して、技術的にもいいものが出ればきちんと更新をしていくということで、配送時間についても、文科省の基準で2時間喫食のルールというものがございまして、調理が終了してからいただきますと喫食を開始するまでに2時間の中で、輸送にかかる時間を15分ということで基準を設けて、配送校を選定していきたいと思います。

西山忠男 委員

こういったものをきちんと守りながら、温かくておいしい給食の提供に努めていきたいと思っております。

分かりました。

もう一つアレルギーの対応なんですけど、やっぱりこれまでのように対応可能かということについては相当不安があるんじゃないかという気がいたしますね。それで、集中化しますと、どこの学校にどういうアレルギーの生徒さんがいて、だから、これは作れないとか、これは使えないとか、いろんなことを考えなきゃいけない。相当現場の負担もあるんじゃないかという気がするんですね。だけど、それ間違えたら絶対いけないですから、そのところの安全性の担保というのは大丈夫なのかということにやっぱり応えないといけないと思うんですね。それで、専用調理室の設置や専属の調理スタッフの配置を行うということで、学校との密接な連携を図るということで、これで納得していただけるといいなと思うんですけど、今、中学校はそういう形でやっているんですね。それで事故は起こっていないですよ。

草野陽介 健康教育課長

令和6年度、誤食という形でそういったことはあってはおりますけど、2つあるかと思います。

現在、施設が狭いということで、代替食を作る場合にも専用の居室ということではなくて、一画を使ってやっていると。今回施設を新しくすることできちんとしたスペースでやるということ。

それから、給食センターの施設規模につきましては6,000食程度を想定しています。これは小・中学校を同時に作るわけですが、今一番大きな調理場が出水南共同調理場で、ここは3,000食になります。ですので、今現在、既実績のある食数規模3,000食で、小・中でツーラインで6,000食という形で考えておりますので、我々としてはそうした工夫をしながら、今までとできるだけ同様のアレルギー対応というのをやっていきたいと思っております。

西山忠男 委員

ありがとうございます。そういうことであればご納得いただけるんじゃないかと思うので、どうぞよろしくお願いいたします。

村田 稔 委員

別冊資料のほうの本編と書いてあるほうですか、14ページのところに書いてあったんですけど、衛生管理基準が十分に満たされていない、あるいは老朽化した施設の中で、地域によっては施設の調理能力を超過する食数を各調理場の栄養教諭と調理員の方々の工夫とか協力によって賄われている状態の場所があるというのを拝見して、やっぱりいかに最終的に人によって、こどもたちの給食が毎日提供されているのかというのをありがたいなと改めて感じたんですけど、だからこそ、今年、今エアコンの調理室への工事が始まっていますけど、できる限りそこで働く方々の環境がよくなって、そこで働きたいと思ってくださる方が増えてくれるといいなと、感想ですけど、思いました。

20ページの食中毒の発生時の影響というのが、自校方式よりもセンター方式が少しリスクが高いというふうに書いてあったので、輸送に15分以内とか先ほどお話を伺いましたけど、食中毒防止、拡大をなるべく防ぐということで、ほかに具体的にどういった方法などあるのかというのがもしありましたら聞かせていただきたいと思います。

草野陽介 健康教育課長

食中毒の発生については、集約化することで一たび起きた場合に影響が非常に大きくなるんじゃないかといったご意見、アンケートの中でも多くいただきました。

私どもとしましては、現在の施設が衛生管理基準を満たしていない施設が多くあると。具体的には、汚染区域と非汚染区域できちんと分けなければいけないところが分かれていなくて、調理員の方々の動線を工夫するとか、そういったもののソフト的な対応によっているということで、今回、施設をきちんと新しく造るということで、そういった施設基準についても、ハード面についてもしっかりと整備させていただいて、食中毒の発生リスクそのものを抑えていくといった取組で対応していきたいと考えています。

村田 稔 委員

ありがとうございました。

ちなみに、最初に言った調理員の方々、栄養教諭の方々の工夫によって、今、給食が提供していただけているという状況ですね。パブリックコメントにもありましたけど、食育、身近でその姿を見て、感謝を伝える機会が減るんじゃないかというお声がありましたけど、見学スペースというのが書かれていまし

遠藤洋路 教育長

たので、毎日すぐそばで見られるところになくても、そういうところで見学スペースとかぜひ活用をしていただいて、それはこどもたちだけでなく保護者もですけど、見て、それを伝えるというか、感謝の気持ちを持てるような機会というのは引き続き持っていただけたらなと思いました。ありがとうございました。

私からも1点確認なんですけど、先ほど村田委員がおっしゃった食中毒に関して、今回、パブリックコメントとかアンケートを受けて変更した部分で、概要でいうと3ページの真ん中ですけど、さらに食中毒発生時の影響が拡大しないよう、徹底した管理体制の構築に努めるなど書いてあって、食中毒の発生のリスクを下げるのは当然であり、全体的な衛生管理を徹底するということなんだと思いますけど、食中毒発生時の影響が拡大しないような方策というのは、あえて今回これを書いているというのはどんな意図なのかというのをちょっと説明してもらえるといいかなと思いますけど。

草野陽介 健康教育課長

意味としましては、一たび発生したときの影響が拡大しないようにということではなくて、あくまでも先ほどご説明をしたとおり、食中毒そのものが発生しない取組、ハード面・ソフト面、これをしっかりとやっていくということを改めてこちらに書かせていただいたという趣旨でございます。

遠藤洋路 教育長

そうであれば、食中毒発生時の影響が拡大しないという書き方ではなくて、食中毒の発生のリスクが極力少なくなるよというような書き方のほうがいいのかなと思いますけど。

草野陽介 健康教育課長

少し分かりにくい部分があったかと思います。表現の仕方は少し工夫をさせていただきたいと思います。

遠藤洋路 教育長

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。
では、ほかにないようでしたら、本件は以上とします。

日程第5 自由討議

・テーマ「英語教育について（ALTとの意見交換）」

《榎木敏之 指導課長 説明》
《水田貴光 教育センター所長 説明》

遠藤洋路 教育長

では、自由討議に入ります。

本日は、ALT2名の方にもご参加いただいております。お忙しい中、ありがとうございます。

それでは、ただ今から討議に入ります。時間は30分程度を目安とします。

西山忠男 委員

西山といいます。よろしくお願いいたします。

まず、最初にお尋ねしたいことは、日本の英語教育の在り方についてなんですけど、私が中学生の頃は、英語教育はグラマーとリーディングだけでした。しっかりグラマーを教えて、文の構成を理解した上でリーディングに進むという教育でした。スピーキングはありませんでした。ですから、日本人は英会話ができないんだという評判になって、それで今はスピーキングに重点を置いた教育になっていると思います。

しかし、私はちょっと不安なんです。小学校や中学校の英語の教科書を見て、グラマーの説明もなく文章が出てくる。疑問形なのか、普通の文なのか、それから時制ですね、現在形、過去形、過去完了形、そういった具体的なグラマーの説明がなくて、いきなり会話に入っているわけですね。それについて、非常に私としてはこれでいいのかなという不安と疑問があるんですが、まず、その点について、どう思われるか教えてください。

Rebecca Willis 外国語指導助手

まず、私、敬語があまり上手じゃないですので、ご理解お願いいたします。

皆さんが自分の日本語を学ぶときに、文法ということはあまり分かりませんでしたよね。こどもの頃に、幼稚園のとき、1年生、2年生はまだ名詞、動詞、過去形、現在形とかは全然分からないんですけど、言語の勉強はできましたから、最初に文法が分からなくても、少しだけ口が慣れていったら、それが学びの原因になるかもしれない。それがベースだと思います。

確かに、全然文法の説明がなければ、特に先生にとって難しいかもしれません。特に自分の英語に自信がなければ、全然分からずに子どもたちに教えるのが難しいかもしれない。先生たちの自信がなければ、子どもたちもうまく学ぶことができない

<p>Linden Gardiner 外国語 指導助手</p>	<p>かなと思います。ですから、もう少し説明があればいいかなと思っていますが、文法に集中する必要はないと思います。</p> <p>Rebecca先生と同じ気持ちですけど、すごく幼いこどもと小学校向けの教科書があるので、その教科書は十分と思います。文法はあまり説明がなくて、その辺は自然に教えたいです。もちろん中学校は文法は大事なんですけど、小学校のレベルは、文法は教えなくてもいいと思います。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>お二人ともそんなに文法を重視して、まず、文法をしてからということじゃなくていいんじゃないかというような感じでしたかね。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>よく分かりました。確かに小学校導入のときには文法はなくて、自然に会話で覚えるというのがいいと。それで私も安心いたしました。</p> <p>もう一つ続けてよろしいですか。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>Rebeccaさんの質問への回答の中で、うまくいっていないことの回答の中で、欧米の国ではよかった点や改善点について直接指摘をする習慣があるけど、日本人はそれはあまりしないので、自分のどこがいいのか、悪いのか分からないと。それが改善につながらない、信頼関係の築きにもなりにくいというご指摘がありました。これは確かにそういう面もあるんですけど、現在ではかなり変わってきているような気もするんですよね。お互いのいいところ、悪いところは直接指摘するような風土ができつつあると思うんですけど、でも、欧米の方からしたら、まだそれが十分でないということなのかもしれませんね。もしそうだとしたら、これはやはり学校側が改善すべき点ではないかなというふうに思います。</p> <p>私は個人的にはずばずば物を言うほうなので、その分嫌われるんですけど、嫌われてもそれは仕方のないことで、はっきり物を言うほうが大事だと考えている人間なんですけど、この点はよく分かりました。</p> <p>学校の先生にも少しALTに対する遠慮があるのかもしれないですね。先生によっては遠慮があるというか、ある意味、ちょっとあまり頼りたくないと思っているのかもしれないし、個人差があると思いますが、そういうところでやはり上手に人</p>

		<p>間関係を築けないと授業はやりにくいだろうなというのは感じたところです。ですから、日本人の先生ももう少し英語に自信を持てるようになって、ALTの人たちと十分に意見交換ができて、どういう授業づくりをしたらいいかということをやったりしっかり議論してつくっていただきたいなと思っていますところ。これについてご感想があればお願いします。</p>
Rebecca Willis	外国語 指導助手	<p>日本人の先生がすごく忙しいというのがありますので、ALTとの授業づくりがたまに難しいかもしれないんですが、もし5分だけ、10分だけでも話す機会があれば、もっと授業づくりはうまくいくと思いますので、朝の10分かな、それとも昼休みとかの5分が取れたら、それがいいんじゃないかと思います。</p>
Linden Gardiner	外国語 指導助手	<p>私は一番大事なことは、日本の先生に対して本当に正直に言うてほしいです。もちろん遠慮することは大事なんですけど、日本の文化のほうで。でも、私たちは正直に言うのは悪いことではないですね。もちろん反応がよく分からないんですけど、私にとっては悪いことでも言ったほうがいいと思います。それをもうちょっと日本の先生も頑張ってもらいたいと思います。</p>
Rebecca Willis	外国語 指導助手	<p>Linden先生が言ったとおり、もちろん日本人の先生にももう少し正直に言うてほしいかもしれないんですけど、これは文化の違いですので、1人が相手の文化のために全部やったら難しいかもしれないんですが、日本の文化は空気を読むことがすごく大事じゃないかなと思います。でも、空気を読むのは一生かけて学ぶことです。ですので、急に日本に来たら、空気を読むのを勉強する方法はないですね。そうですね。私たちは日本人ではなくて、日本の文化を一生学ぶこともないですので、私たちが日本の文化の空気を読むことには参加しにくいです。それを理解していただいて、もう少し、ちょっと正直に言うてほしいと思います。お願いします。</p>
西山忠男	委員	<p>よく分かりました。確かに率直に意見交換をして、あくまで私たちは生徒さんたちの教育をやっているわけですから、教育をよくするためにはお互いに批判を恐れてはいけないんですよね。そのことを現場の先生方に分かってもらいたいと思います。これは教育センターかどこから伝えてほしいと思います。</p>

遠藤洋路 教育長

ど。

やはりALTの人たちは英語教育のために雇っているわけですね。先生方もそのために雇われているわけですから、お互いに本来の目的、教育という目的、教育の向上のために何をすればいいのかというのは率直に語り合うべきだと思います。もう少しALTの人たちと意見交換をして、授業づくりについてもしっかり考えていただきたいなと思います。

今回、私、全然実態を知らなかったものですからどういうものかなと思って、ALTの人たちに直接意見をお聞きしたいと思って来ていただいて、非常によかったと思いました。今後の熊本市の英語教育の改善に非常に役に立つと思います。ありがとうございました。

ありがとうございます。

今、西山委員もおっしゃいましたが、やっぱり日本の文化と、ここに書いてある中には欧米の文化と違って、それぞれどっちがいい、悪いということじゃないわけですけど、英語を学ぶためにALTの方を呼んでいるわけなので、ALTの方に日本の文化を学んでもらうために呼んでいるわけじゃないので。目的を考えれば当然日本の文化がこうですということではなくて、英語を学ぶためには、あるいは英語を教えるための職場のコミュニケーションとしてはどういう姿がいいのかということを考えて、教職員の対応というのは当然必要でしょうから。そこは指導課なのか、教育センターなのかはよく分かりませんが、先生方への研修とか、そういう場面でもぜひ伝えていただきたいと思います。

ここにいる委員さん方は遠慮がちに物を言う文化ではあまりない感じもしますが、やはりそこは必要なことは職場の中でも言っていくということだと思います。

別に学校全体の活動をずばずば物を言い合うようにすべきだという話ではなくて、英語の教育、そしてALTの皆さんとのコミュニケーションに関しては、それがどうするのがいいのかという観点で考えて、当然場面によってコミュニケーションの仕方も変えていくという、そういうことがやっぱり必要なんだろうね。

澤栄美 委員

私は西山委員と同じ世代で、リーディングとライティングだけで英語を学んできた人間なので。

遠藤洋路 教育長

本当にしゃべる時間って全然なかったんですか。

澤栄美 委員

しゃべる時間はありますけど、片仮名英語ですね。

遠藤洋路 教育長

発音はともかく、でも、しゃべる機会はありませんか。

澤栄美 委員

そもそも英語の先生が片仮名でしゃべっていたので。

遠藤洋路 教育長

でも、いいんじゃない、しゃべらないよりはいいじゃない。

澤栄美 委員

最初に私、今でも覚えているのは「row, row, row, your boat」という歌を最初に歌って、「How are you?」というのが本当に決まり文句で、そして、外国に行ってらっしゃった学生が教育実習に来たときに、英語圏に行ってらっしゃった人で、あ、これが英語なんだと思ったような、そういう教育を受けてきたので、大人になってから、やはりアウトプットが大事だとどこかに書いてあったんですけど、アウトプットができない自分に気づいて、大人になってスピーキングを自分なりに学んだようなところがあります。ALTの先生方が先ほど言われましたけど、早くに英語に触れていくということですね。そして、アウトプットしていくということは非常に大事なことで、とてもいいことだと思っています。

2点聞きたいことがあるんですけど、1点目は、ALTの質問のコメントのところに、コミュニケーションがうまくいっていないことではどんなことがありますかというような、9ページのところにLinden先生が、懸念やメッセージをプライベートに共有できるプラットフォームがあれば、邪魔にならずにもっとよいコミュニケーションができると書いてある。これはちょっと具体的に誰たちがどういう形でということを書いてらっしゃるのか、もうちょっと詳しく聞きたいというのが1点と、それから、これは私も大人になってからアウトプットをやってきた中で、一番の友達が英語の教員なんですけど、彼女から聞いたんだっかは分からないんですが、英語の発音というか、英語をしゃべるときに発音よりもいろんな、例えばフィリピンの方の英語もあるし、中国人の方もあるし、基本的にはアメリカ英語だったり、イギリス英語だったり、「キャン」が「カン」になったりとか、そういうのはあると思うんですけど、

		<p>発音よりもアクセントのほうが重要で、アクセントを間違えるとちょっと通じにくいところがあると聞いたことがありますけど、今、子どもたちの授業をたまに見ることがありますけど、どうしても何か日本人って、LとR音はラリルレロなので難しく、何でも巻き舌にしてR音にすれば通じるんだと思っているようなところもあるような気がするんですけど、子どもたちが自信を持ってしゃべるために、あまりそこは違うというところとよくないと思うんですけど、何か気になるようなところはあるのかな。さっきのアクセントとか、例えばですね、日本にはないt hの音とか何かそういうところで気になって、こういうことを注意して指導しているということがあったら教えていただきたいと思います。</p>
遠藤洋路 教育長		<p>じゃ、最初にLindenさんのプラットフォームについて、少し詳しく教えてくださいというところはいかがでしょう。</p>
Linden Gardiner 外国語指導助手		<p>最初は、何か忙しい先生方は、例えば打合せができないときに、例えば通じない場合があったら、何か資料が欲しいです。何か書いたほうがいいです。何か持っている、例えばグーグル翻訳を使って、通じましたとか、もし打合せができなかったら、何か欲しいです、授業の前。コミュニケーションが一番大事だと思いますので、何か授業について少し分かればもうちょっとうまくできると思います。</p> <p>2点目は、英語の発音ということです。一番大事なものは、特に小学生はフォニックスです。フォニックスをご存じですか。</p>
澤栄美 委員		<p>フォニックス。</p>
Linden Gardiner 外国語指導助手		<p>フォニックス。例えば皆さんがアルファベットを勉強する方法は、文字の名前はA B Cとか。でも、あまりフォニックスは勉強していないですね。ネーティブの発音が例えばA、ア、Appleとか。もちろん、Aは分かるでしょう。Aのこれは文字の名前なんですけど、でも、本物の発音はその単語をつくったときにその音が変わります。日本語と違い、あと、平仮名と片仮名が、これはあいうえお。それが発音はあまり変わらないですね。ところが単語をつくったら、これです。これだけです。すごく幼い頃とか、小学生はもっとフォニックスを勉強したら、発音がすごく上達できると思います。今の教科書はあ</p>

Rebecca Willis 外国語 指導助手	<p>まりそれが重要じゃないみたいです。そういうのももうちょっと詳しく勉強したらいいと思います。</p>
	<p>Linden 先生が言ったフォニックスというのは、文字と発音の関係の学習ということです。実は、私とLinden 先生が生徒のときに、フォニックスもアメリカとカナダで勉強したんですけど、私の次の世代でちょっとなくなりました。でも、今アメリカに英語があまり読めない人が多くいると言い始めました。なので、フォニックスは本当に大事です。</p> <p>例えば澤委員が言った t h の音が日本人にとってすごく難しいんですね。t h は t の音と h の音じゃなくて、t h になります。一緒に現れると、発音が違います。でも、それはあまり今勉強の中に、カリキュラムの中に集約されていませんので、読むことがすごく難しくなっていると思います。中学生が片仮名ガイドがなければ英語の単語が読めないんですよ。それがちょっと気になっているんです。でも、確かに L、R は難しくて、V の発音も難しいんです。そういうことは本当に先生として働いたときに気になりました。生徒たちと一緒に頑張りましたけど、やっぱり難しいと気づきました。</p>
澤栄美 委員	<p>アクセントとかで気になることはないですか。やっぱり発音が、さっきのフォニックスですね、フォニックスのことはいきなりは難しいところもあると思うんですけど、アクセントがちょっと違っていてということも結構ありますか。</p>
Rebecca Willis 外国語 指導助手	<p>あります。例えば Can you say ashita in English?</p>
Linden Gardiner 外国語 指導助手	<p>Tomor row。</p>
Rebecca Willis 外国語 指導助手	<p>Tomor row。ちょっと違います。私たちの o の発音がちょっと違いますので、アクセントが違います。</p>
Linden Gardiner 外国語 指導助手	<p>国によって違いがありますので、それはちょっとしょうがないと思います。</p>
Rebecca Willis 外国語	<p>はい。</p>

指導助手	
Linden Gardiner 外国語 指導助手	<p>もちろん何かアクセントが違うんですけど、フォニックスを勉強したらアクセントは関係なくなりますので、もうちょっと分かりやすくなります。フォニックスの勉強をしたら、本当に聞きやすくなると思います。</p>
澤栄美 委員	<p>個人的に自分の英語力を高めるのに物すごく今、フォニックスに興味を持ちましたけど。ありがとうございます。</p> <p>先ほどLinden先生が書いた資料とかが欲しいということをおっしゃったんですけど、多分思っていることを言えないというのもあると思うんですけど、今、学校の先生たちって、ある程度よくできた人たちなんです、勉強が。だけど、英語はあまり得意じゃないという人が多くて、失敗を恐れているというか、何か自分が得意じゃないところには行きたくないというようなところもあると思うんですけど。ただ、それが求められているんだということがここで分かったならば、やっぱり英語、担任の先生とか、そういう先生たちにそのことを伝えて、私、今、アメリカの友達とやり取りするのに長い文章を書くのには物すごく時間がかかるので、それこそChatGPTで英語に翻訳しやすいような日本語を書いて、一応翻訳してもらって、でも、ここ、おかしいんじゃない、それはそうですねみたいな答えを出してくれるので、先生方もそういったものを利用して、すぐに翻訳したものを渡せるようにとか、そういう工夫ができていくといいのかなと。こういう時代なので、間に何か通訳が入ってもいいと思うんですよね。そんな中で学んでいける場所もあると思うので、やはりALTの先生方が働きやすいというか、指導しやすいような環境を日本側の先生たちもしっかりと心がけていただきたいと思います。ありがとうございます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>今、澤委員がおっしゃった失敗しないとか間違えないという、これってやっぱり日本人のすごく重要だと思っているところだとは思いますが、でも、考えてみれば体育とかでは失敗するわけじゃないですか。というか、失敗しないとうまくなりませんよね、跳び箱だって何だって、スポーツ。そこはでも、失敗してうまくなるわけじゃない。何で英語だと失敗するのを極端に恐れるけど、スポーツだとそこまで恐れないんですかね。</p>

澤栄美 委員	私のこれは個人的な考えというか、一般的に見ていて思うのは、日本人って、どの時代ぐらいからですかね、西洋人に対するすごい劣等感みたいなのが、私、あると思うんですよね。西洋人がいるとハローとか言うけど、じゃ、外国の東洋人がいたときに、ニーハオとか言わないと思うんですよ。見かけが似ているから、そんなふうに言わないのかもしれませんが。何かその辺の自信のなさ。体育ができるかできないかはその人が持って生まれた能力の部分なので、それは仕方ないかなという諦めとかも結構あるのかなとも思うんですけど。
遠藤洋路 教育長	じゃ、中国語や韓国語を学ぶときは、そんなに英語ほど失敗を恐れないんですかね。
澤栄美 委員	どうなんですかね。
遠藤洋路 教育長	そんなこともないと思う。
澤栄美 委員	韓国は別の意味でやっぱり韓流とか、はやりもあるので、積極的に結構なれるのかなと思うんですけど。
遠藤洋路 教育長	なるほど。そういうような。
澤栄美 委員	私の考えなので分かりませんが。少なくとも私も西洋人を見たら、ハローと言ってしまうようなこどもだったので、何かそういうところは慣れ親しんでいる外国の映画ってやっぱりアメリカ映画だったり、そういう西洋の映画が多かったので、何か憧れみたいなのがあって、それができない自分をちょっと恥ずかしいと思ったりしやすいのかなと、私だけの考えかもしれませんが。
遠藤洋路 教育長	分かりました。
村田槇 委員	今日はお忙しいところ、ありがとうございました。 今、体育では何で失敗するのかという話を聞いていながら思ったんですけど、やっぱり相手を伴うかどうかというのは大きいと思うので、体育って、跳び箱とかマットとかだったら自分一人でやっていく。できるようになっていく、教えてもらいながらですけど。でも、英語とか英会話とかになってくるとやっ

遠藤洋路 教育長

ぱり相手を伴うので、そこで間違えたときに、例えば発音が違って笑われないだろうかとか、ちょっと誤解されないだろうかとか、そういう相手に対しての萎縮というか、遠慮というか、それを恥ずかしさとか、相手を伴っているというところが何か大きいのかなと思いました。

なるほど。確かにそう言われるとそんな気もしますね。

村田槇 委員

思うんですけど、日本人は日本語での会話ですら萎縮するんですよね、相手にどう受け取られるだろうか。

私は、言わないで誤解が生じて悪化するよりはちゃんと自分の気持ちを正直に伝えて、それによって生じる誤解のほうが大事なんじゃないかなと思うので、言わなければ言わないで、ずっと日本人って引きずるんですよね。でも、失敗したくないと思ってしまうという気持ちが、やっぱりこどもたちの英会話とか、コミュニケーションを取る上でも同じというのと、指摘をされるということが、日本人は自分自身を否定されるように感じてしまうんですよね。そうすることで、プラスに持っていくために指摘してくれることでも、自分自身を、その時点での自分を否定されたような気分になって、それを不快に思うとか、そういうのも関係のそこからの悪化につながっていったりという人たちも多いと思うんですよね。

ただ、大人というか、先生方もそうやって萎縮したりとか、忙しいのもありますけど、やり取りでぎくしゃくしていると、こどもたちってそういうところをよく見ていて、先生の姿を見て、先生も何かあまりうまくいっていないなと思ってしまったら、やっぱりこどもたちもさらに自信もなくしてしまう。現場の先生方にもっと遠慮せずに萎縮せずにやり取りしてほしいなと思うんですけど、それって昔から培ってきた性格みたいなのところもあるので、それを今から、じゃ、どういうふうにしたら改善していけるのか。何か5分でもとさっき会話がありましたけど、5分でもコミュニケーションを取るとかというのは基本的なところだと思うんですけど、それ以外で何かトレーニングになるようなことはないのかなと話を聞きながら思ったところでした。ありがとうございました。

清田晃子 委員

今日はありがとうございます。

うちの子はALTの先生を近くのスーパーとかで見かけたと

遠藤洋路 教育長

きに、あ、誰々先生だといって、こどもたちは先生と仲よくなりたい、話をしてみたいという気持ちは持っているけど、やっぱり恥ずかしい。通じないかもしれない。英語はそんなに得意じゃない。でも、話したいという気持ちだけは持っている。先生たちもコミュニケーションがちょっと、お忙しいのもあるとは思いますが、ちょっとコミュニケーションが取れていない感じをこの質問のコメントを読んでいると、先生たちの背中をこどもたちが、さっき村田委員がおっしゃっていたように、やっぱり先生たちが積極的にうまくできなかったとしてもやっている姿を見ると勇気ももらえらると思うので、何か全体的に積極的にコミュニケーションが取れる何か仕組みというか、そういう流れができていけたらいいんじゃないかなと思いました。

ありがとうございます。

何か私が見ていると、小学生は結構、あまり恥ずかしがっていないようなところもあって、中学生は思春期だから、ただでさえ恥ずかしいじゃないですか。そんな時期に英語をしゃべれなんて、むちゃ言うなよみたいな感じもあるので、小学校から英語をやるってすごくよかったんじゃないかな。

以前、インターナショナルスクールに行ったときに話を聞いたときも、小学生のうちはみんな、日本人のこどもも英語を普通にぺらぺらしゃべるんだけど、何か6年生とか中学生になると急に恥ずかしがってしゃべれなくなると。また、もっと上になるとまたしゃべるようになるというふうに言っていましたから、一番英語をしゃべりにくい時期に英語を今まで導入をやっていたような気がしたので、それよりはやっぱり早いうちからやったほうがいいんじゃないのかなと思います。

前も1回言ったかもしれませんが、小学校を見に行ったときに、ALTの先生が「Can you speak English?」とこどもたちに言ったんですよ。そしたら、みんな、イエスと言ったわけ。すごい、この子たち、英語をしゃべれるんだと思って。というより英語をしゃべれるんだと思っているんだと思って、それってすごいことだと。私たちの世代というか、英語をしゃべれますかと言われて、はいと答えられる日本人ってほとんどいないじゃないですか。

だから、その授業が終わった後、校長室に行って、校長先生に「Can you speak English?」と。「a little bit .」とか言うわけですよ。いやいや、こどもたち、イエスと言っていました

	<p>よって。今、あなた、英語でしゃべっているじゃないですか。</p> <p>だから、小学生は何かそういうところってすごく素直にコミュニケーションできていて、私は、だから、今の小学生のこどもたちが大人になったときには、すみません、私や西山委員や澤委員の世代とは大分違う意識で英語とか、いろんな国の人とのコミュニケーションとかできるんじゃないのかなと、結構、個人的にはすごく希望を持っているんですけど。そんなことはないですか。どうですかね。だから、意外とうまくいっているんじゃないかなと思っていました。</p> <p>でも、これを見るといろいろ書いていただいているけど、先生とのコミュニケーションというのもその前提としてはやっぱり必要で、そこはもっと改善の余地があるんだなというのを今日のご意見を聞いて、よく分かりました。</p> <p>忙しいからといっても、授業の準備なので、それはどれだけ忙しくても、業務の中で優先すべき業務なので、先生もそれは、授業準備は、5分や10分のコミュニケーションはやっぱりやっていただきたいなと思うんですけど、どうですか。学校から来ている次長や指導課長、やっぱり5分しゃべる暇もないぐらいな感じなんですか。</p>
楳木敏之 指導課長	<p>当然5分、10分の事前の打合せというのは十分可能だと思います。忙しい日というのはあるかもしれませんが、そういうのを取ろうと思っていて、ぎりぎりまで何かが立て込んだということはあるかもしれないですけど、通常はそこをやっぱりしっかり予定に入れて過ごすべきだとは思いますので。</p> <p>時間を確保してやっている学校もたくさんあると思いますので、そこはとにかく意識して。英語の担当者が集まる研修とか会議もありますので、その中でも繰り返しそういうのが授業のためにはしっかり取ってほしいし、ALTからも非常に望まれているということを伝えながらいきたいと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>Linden さんが書いていただいているプラットフォームという、もちろん紙で資料を渡して、見ておいてくださいでもいいんでしょうけど、何かコミュニケーションするツールみたいなのはあるんですか、ALTの方と教職員が。</p>
Rebecca Willis 外国語指導助手	<p>いろんな可能性があると思いますけど、たまにLINEで私は資料をもらいました。担当の先生が私が帰ってから、あした、</p>

	これをやりたいですとeメールをもらったことは何回もあったんです。それも大丈夫と思います。
	そして、今の状態について詳しく話せないかもしれないんですけど、A L T用のグーグルアカウントを誰かがつくっていると聞いたので、そのアカウントでA L TもT e a m sに入れるようになったら、もっとコミュニケーションが取りやすくなるかもしれないです。それが今うまくいっているかどうか分からないですけど、指導課の郷田さんから聞いたから、もしかしてそれが本当なら、皆さんが助かると思います。
	今、A L Tが学校のT e a m s とかに入ることができませんので、学校とのコミュニケーションがちょっと少ないかなと思います。
遠藤洋路 教育長	分かりました。アカウントはどうなんでしょう。
水田貴光 教育センター 所長	A L Tの皆さんのアカウントは、私も今ちょっと知識がありませんので、ちょっと確認してからまたお伝えしたいと思います。コミュニケーションが取れるようにすることは必要だと思っておりますので、検討していきたいと思います。
遠藤洋路 教育長	もしなければ、この際つくればいいんじゃないですか。64人でしょう。ですから、それはぜひお願いしたいなと思います。
西山忠男 委員	T e a m s に加わったとして、A L Tの先生はT e a m s で交わされる日本語が読めるんですか。
Rebecca Willis 外国語 指導助手	読めないA L Tもいるんですけど、担当の先生との直接メッセージができれば、それだけでコミュニケーションがよくなると思います。
西山忠男 委員	なるほど。分かりました。
Rebecca Willis 外国語 指導助手	学校の全部の資料を読めなくても大丈夫だと思いますけど。
遠藤洋路 教育長	そうですね。例えば今度の授業のこんなふうの流れでいきますよとか、資料を共有するという、事前にそういう話ですね。

澤栄美 委員	さっきの話に戻るんですけど、その際にちょっと自分は英語で伝えることができないなという先生がいらっしゃったら、生成AIとかにぱっと変えてもらって伝えるだけでも、それはデジタルのうまい使い方かなと思って。私、プラットフォームと書いてあったのでそういう世界を想像していたら、紙でという話になったので、紙のことで話していたんですけど、予算の要ることですよ。1人1万2,500円くらいですか、あれ、もらうのはね。
遠藤洋路 教育長	アカウントですか。
澤栄美 委員	はい。それで予算が合うんだったら、ぜひそういった形を取ってもらったらいいいかなと思いました。
水田貴光 教育センター 所長	センターに確認しましたら、今年度から準備して渡しているということですので、支援等できるように考えて、またお伝えしたいと思います。
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。何かよかったですね。だけど、それを皆さん、まだうまく伝わっていないみたいなので、そこはセンターのほうをお願いします。</p> <p>さっきのLindenさんの話だったけど、Lindenさん、大丈夫。何かコメントありますか。</p>
Linden Gardiner 外国語 指導助手	コメントは特にありません、ありがとうございます。
遠藤洋路 教育長	紙でもいいでしょうけど。
Linden Gardiner 外国語 指導助手	紙でもいいです。
遠藤洋路 教育長	Teamsとかでもいいですか。
Linden Gardiner 外国語 指導助手	先生方が、Teamsが使えますので、一番いい方法と思います。ありがとうございます。
遠藤洋路 教育長	もしかしてそんな英語で書かなくても、日本語で書いたって、

	<p>コピーして貼りつけば翻訳できるので、それは大丈夫でしょう。</p>
澤栄美 委員	<p>どちらかがそれをやればですね。</p>
村田槇 委員	<p>すみません、ちょっと時間が過ぎてしまっているんですけど。先ほどは遠慮とか恥ずかしさとかというものの話が出ましたけど、もう一つ、Rebecca先生が書いていらっしゃる外国語学習が脳のトレーニングだと。なるほどとすごく思ったんですよね。今って保護者でも、先生、英会話はスマホがやってくれるから、自分のこどもの受験の勉強を見てくださいという保護者もちょっといたりするんですよね。実際に目で顔を見て、声を聞いて、瞬時に頭で考えて発するという、その脳のトレーニングという点で外国語というのがすごく意義があることなんだというのを、こどもたちも英会話ってどうして必要なんだろうと思っている子たちにもですし、保護者にもより伝わってくると認識って変わってくるんじゃないかなと思ったところでした。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>じゃ、そうですね、時間も大分たちましたけど。</p> <p>最後に、RebeccaさんとLindenさんから何かこの際、私たちにこうしてほしいとか、何かこの辺をもっと改善してくれたらいいのになとか、こんなことがあったらいいのになという要望でも意見でもいいですけど、あればぜひ教えてほしいと思うんですけど、いかがですか。</p>
Rebecca Willis 外国語指導助手	<p>私は本当に言いたいことも言いましたが、ALTが外国語指導助手という仕事ですよ。ですから、主導になればその役割と外れていてストレスになります。何回も何回も今何人もALTから、私はT1をやっていますので、どうすればいいか、急にこの授業をはい、どうぞと言われたんですが、どうすればいいと何回も聞いたので、それについてちょっと気になっていて、もう少し日本人の先生が自信があれば、自分で私はこの授業ができるという気持ちがあればそういう問題もなくなると思いますので、それが本当に大事で、皆様の協力をよろしく願います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。それはどうなんでしょう。やっぱり日本人の</p>

	<p>先生が自分ではあまり英語の授業がうまくないから、先生、よろしくねみたいな、そういう感じということですか。分かりました。それは確かに、それだと助手じゃなくなっちゃいますものね。</p> <p>その辺は何か教育センターとか、指導課とか何か把握されていますか。</p>
水田貴光 教育センター所長	<p>把握まではできていませんけど、教科で英語のみ、夏季休業中に研修をしっかりとっておりますので、ALTの効果的な活用を含めて、しっかり周知といいますか、指導を含めてセンターから話したいと思います。</p>
Linden Gardiner 外国語指導助手	<p>私からはあまりコメントはないんですが、できればもうちょっと研修したいと思います。こどもたちのためにもうちょっとスムーズに授業をしたいと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>何か2人ともちょっと遠慮しているんじゃない。日本文化に合わせて。もっとずばずば言ってくださいよ。</p>
Rebecca Willis 外国語指導助手	<p>これもさっきの話なんですけど、恥ずかしさとか自信がないということについて、ALTもなぜそれが駄目という礼儀として立っていると思います。</p> <p>例えば私は日本に来るときに、それはコロナの後でしたから、初めて到着してからコンビニとかで全然会話ができませんでした。6年間ぐらい勉強しましたが、全然言葉が頭から出ないという状態になってしまいました。でも、4年間の後に、まだべらべらじゃないんですけど、これぐらいの話ができますので、私は4年間でこれぐらい得意になることができたから、こどもたちも絶対できると思います。ですので、ALTの先生が日本語をしゃべらないから日本に行く意味がないといったら、ALTも存在していないんですよね。ですから、ALTがいればとか、いるから、皆さんも頑張らないといけないと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>宮本さん、何かもしあったらお願いします。</p>
宮本和彦 指導課指導主事	<p>指導課の宮本と申します。</p> <p>お二人は日本語が堪能なので、私は必要ないと思ったんです</p>

遠藤洋路 教育長

けど、ALTの先生方が非常に細かいところまで頑張られている毎日ですので、ぜひ日本人の先生方ともタッグを組んでいい英語の授業をして、そして子どもたちのためになるように進めていけたらと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

ありがとうございます。

やっぱり日本人の先生も仕事ですからね。そこはプロとしてちゃんとコミュニケーションを取ってもらわないと困る部分はありますので、ぜひそこはお願いしたいと思います。

では、長時間にわたりまして、お二人の方には自由討議にご参加いただきましてありがとうございました。

自由討議は以上とさせていただきます。

【非公開の審議】

日程第3 議事

- ・議第68号 令和8年度（2026年度）市立学校の校長の特例任用について

《上村清敬 教職員課長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第69号 職員の懲戒処分について

《上村清敬 教職員課長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

〔閉会〕

遠藤洋路 教育長

以上で、本日の会議日程は全て終了いたしました。ほかにはいかがですか。よろしいですか。

では、ほかにご発言がなければ、以上で令和7年11月定例教育委員会会議を閉会いたします。お疲れさまでした。